

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O

2004

10

October

特集

まちづくり最前線

4.5

- 2 **トピックス** 第3回理事会・臨時評議員会開催
- 3 **視点** 「トーク・とく・talk」
- 3 **ひろば** 「〇〇をしたい」の発足
- 6 **実践記録シリーズ** 遊びにおいでよ、キッズクラブみつけへ
- 7 **サークル交流** 新潟かみしばいクラブ(新潟市) / 水彩画サークル(頸城村)
- 7 **素顔拝見** 前川龍也さん(村上市) / 瀧澤哲也さん(広神村)



越路町「もみじ園の紅葉」

第三回理事会・臨時評議員会開催

○第55回県大会決議文案承認
○県町村職員退職手当組合解散に伴う脱退精算負担金について、10年均等分割無利息で返済の方向で

7・13中越地区水害で開催中止となった第55回県公民館大会、予定されていた大会決議文案の提案・承認や、次期開催地への大会旗の引継ぎも未実施であり、また県町村職員退職手当組合解散に伴う、県公連の脱退精算負担金にかかわる重要事項があったため、急きよ九月八日(水)、第三回理事会と臨時評議員会が新潟市中央公民館で開催された。議長には、上公連須城村公民館長外ノ池一氏を選任、議事に入った。



△次期開催地あいさつ

◇報告事項

一、第55回新潟県公民館大会の開催中止に伴う中間経過報告(長岡市の大会事務局並びに県公連事務局より)、開催可否及び開催中止後の対応経緯について、緊急対応も含めて詳細な報告がなされた。
・大会経費の精算見込書も、中間報告という形で、詳細な説明がなされた。

二、第45回関東甲信越静公民館研究大会第4分科会「市町村合併問題への対応」(発表担当の新発田市より)
・発表内容、協議内容、助言内容等について、口頭で詳細な報告がなされた。

◇審議事項等

一、第55回新潟県公民館大会の大会決議文案並びに次期開催地・期日について
・大会決議文案については、別掲内容のとおり秋山副委員長から提案され、万場一致で承認された。

大会決議文案

新潟県公民館連合会は、昨年7月の第54回県大会で、全国に先駆け「市町村合併と公民館についての緊急アピール」を提案し、全会一致で承認された。

このことは、8月の第44回関東甲信越静公民館研究大会、10月の第26回全国公民館研究集会の緊急アピールにつながり、一定の成果をもたらした。

一方、合併が本格的に進む中で、合併事務に追われる等により、職員の研修意欲の低下傾向があり、また都市公連の一部に組織解体等自壊作用が見られ、無力感、脱力感が漂うように思われる。

そこで、第26回全国公民館研究集会緊急アピールに立ち返り、職員の意識改革と都市公連の組織再編、研修体制の確立等を中心に大会決議する。

記

1. 市町村公民館関係職員の意識改革と研修の充実を図る
 - (1) 「公民館の設置及び運営に関する基準」の趣旨を踏まえ、自らの職責を強く自覚し、地域住民のニーズを的確に把握した講座・事業の企画・立案・実施に努める。
 - (2) 施設・設備の整備を働きかけ、資料・人的指導体制を整える等職員研修の充実を努めるとともに、自らの力量の向上を図る。
 - (3) 外部評価の導入などにより事業評価の改善を図り、またボランティア等の人材をいかして、活力ある公民館を目指す。
2. 都市公連の再編と、新しい研修組織の確立に努める
 - (1) 旧都市公連の枠を越えた、新しい研修組織の編成・確立に努める。
 - (2) 当該市町村及び公民館と連携を図りながら、研修予算の確保・人的支援体制の充実を努める。
3. 新潟県公民館連合会の果たすべき役割を積極的に行う
 - (1) 合併後の新しい地域づくりを進めるために、公民館の必要性を訴え、専門的職員の配置を確保するよう各方面に働きかける。
 - (2) 県公連「市町村合併問題調査検討委員会」と、新設する「自主財源確立のための調査検討委員会」の活動をとおして、県市長会、県町村会、県公民館振興市町村長連盟と密接な連携を図りながら、県内外の情報提供・交換、県公連の組織強化及び財政の確立に努める。
 - (3) 市町村再編終了後の新しい県公連役員組織、事業等のあり方について検討する。

平成16年7月16日 第55回新潟県公民館大会
(平成16年9月8日臨時評議員会で承認)

・次期開催地は白根市で、平成17年7月15日(金)に行うこと
で提案され、これも承認された。



△大会決議文案提案

◎大会旗の引継ぎ

・長岡市中央公民館吉岡館長から白根市中央公民館小林館長に手渡された。

・次期開催地の白根中央公民館小林館長より、来年は新潟市に合併されるが、旧中蒲の新津市、小須戸町、横越町、そして新潟市からの全面的な協力を得ながら開催したい旨のあいさつがあった。

二、新潟県町村職員退職手当組合解散に伴う、県公民館連合会の精算負担金について
・突然降って湧いたような難題について、昨年からの新潟県公民

館振興市町村長連盟や、新しい受け皿組織の、新潟県市町村総合事務組合からの助言及び対応経緯について、会長及び県公連事務局から詳細な説明がなされた。

◎様々な角度からの検討がなされた後

十年均等分割、無利息で、七五万五千円ずつ返済していく方向で承認された。
財政多端の折ではあるが、年度後半期から創意工夫を重ねながら、返済に努力していくこととなった。

視点

「トーク・とく・talk」

—只今、ボランティア登録受付中—

新潟市中央公民館 運営審議会委員 笠原 孝子



新潟市では、現在学びの拠点として、生涯学習センター(仮称)の建設が進められています。ここに来春、新潟市中央公民館が、その機能を拡大、充実して移転することになっています。

センターの運営にあたっては、市民の皆さんから積極的に関与してもらおうと、公運審が中心になって、ボランティアを考える市民集会を段階的に開催しています。その名を「トーク・とく・talk」。

参加者が、それぞれの思いを、それぞれの形で、自由に、忌憚なく話す場——という意味

で名付けました。はじめはワークショップで、次はパネルディスカッションで、毎回形を変えて開催してきましたが、九月からは、「少し専門的な話を」という意見を容れ、講義形式で実施することになっています。

人と人とのつながりが希薄になっていくといわれる今日、「学び」と「ボランティア」をキーワードに、新たな関係づくりができれば良いと思っています。只今、ボランティア登録を受付中です。

H O T N E W S

掲 示 板

第1回 月刊公民館編集委員会開催

日時：平成16年9月10日(金)午後3時～午後5時
場所：全国公民館連合会会議室

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
- 事務局が余り表に出るのは、考えた方がよろしい。
- (1) 事業評価、内容レベルがいきなり高い目標では困るのでは。
 - ・とひら一市町村長が驚いているのはよろしい。
 - ・利用者の声既刊号の『月刊公民館』の評価及びその取組について、職員入門編、ブックインフォメーション、指定管理者制度が読者の反応は好評だった。
 - ・もっと速く情報入手できないものか。
- (2) 平成17年度1月号以降の特集テーマについて
特集テーマ、執筆者の選定等
3月号は原案どおり、1～2月号は若干変更した方がよろしい。
- (3) 次回の編集委員会の日程について
11月12日(金)とする。
- (4) その他
- 4 閉会

- 月刊公民館編集委員(平成16年度) (50音順)
- ・石川 正夫(全国公民館連合会事務局長)
 - ・大山 真未(文部科学省生涯学習政策局社会教育課)
 - ・岡 幸江(埼玉大学助教授)
 - 加藤 雅晴(川村学園女子大学教授)
 - ・加藤 美幸(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)
 - 鈴木 友夫(新潟県公民館連合会事務局長)
 - ・田中 雅文(日本女子大学教授)
 - ・中森美都子(国分寺市本多公民館職員)
 - ・藤井 均(元埼玉県教育委員会教育委員長)
 - ・三輪 建二(お茶の水女子大学教授)
- 印 委員長 ○印 副委員長

ひろば

「〇〇をしたい」の発足

大潟町社会教育委員長 小関 毅

「〇〇をしたい」(〇〇隊)という、子どもに係わる社会参加への希望が実現できたら、もっと地域社会が変わっていくことでしょう。

ヨチヨチ歩きの子を眺め、この子と少し係わりたい老夫婦。いろいろな技術を持ちながら、それを伝える機会のない秀れた技能保持者。そんな人達が子どもと一緒に活動する社会を目指した活動が、いま大潟町で始まろうとしています。

地域の中で犯罪から子ども達を守り、地域全体で子ども達の豊かな心を育めるような活動をする目的で、大潟町小学校PTAが中核となり、七月七日「おおがたみまもり隊」を発足した。隊員数は発足時で六十四名。各自の都合のつく時間帯で活動し、地域で子ども達と係わり始めている。

青少年育成町民会議では、「おおがた育て隊」の発足が企画中である。子育ての終わった老夫婦から希望登録していただき、若夫婦から時間委託を受け、預かるシステムである。

公民館では、現在の「子ども土曜ひろば」を拡大する「おおがた教え隊」を考えている。変化が見られたらいいな……

最前線

地域住民を巻き込み地域づくりを進める。今後は岡方地区の地域ビジョンづくりを目指す。

■長浦地区「よさこいから伝統芸能の継承」

人口6,833人 1,810世帯

純農村地帯に一部新興住宅が入り込む。伝統芸能、特に民謡が盛んな地域。

・「ストロベリー」結成 (小学4年生～中学1年生の15人/毎週土曜日練習日)

これまで、よさこいで12回ほどステージあり。そしてついに、10月10日の民謡まつりで「新潟船方節」を発表予定。

「長浦よさこいチーム」結成 (会員数40人)

毎週土曜日練習日/健康づくり、交流の場

今後の目標は、多くの子どもたちから伝統芸能を継承してもらうこと。

■葛塚地区「新興住宅地の自治会づくり」

人口19,525人 6,221世帯 豊栄市の中心市街地郊外の新商業地区が形成され旧市街地は空洞化現象が見られる。また市民活動が盛んな地域。



彫刻シンポジウム風景

これまでの4地区は、地域全体を捉えて地域づくりを地域住民とともに考えてきましたが、葛塚地区では一つの自治会にターゲットを定めスタートしました。それはコミュニティの基本は自治会であり、そこに地域づくりの原点があると考えました。衰弱した自治会機能を再生させ、新たな地域サポートシステムを構築することを大きな目標

としました。そのためのモデル自治会として石動自治会を選定しました。石動自治会は新興住宅地の中にあつて、ここ10年間に急速に発展してきた自治会です。

○ふるさとといえる地域を目指す

家族や地域に温かく見守られていた記憶、家族や地域に必要とされていた記憶、家族や地域に役立った記憶、そうした記憶が自然に残る地域にしたい、これが石動自治会の意思でした。これを20年かけて達成すること。その第一段階として「顔の見える自治会」を目標に、ポプラの太木を使って、自治会の誰もが参加できる次のモニュメント制作を実施しました。

テーマ：そばにいて「あなたの心と透明な風」

会期：8月1日～21日/参加者120人

指導者：向井勝實氏 (世界的な彫刻家)

多くの人々が参加して刻んだポプラの木は、自治会内のすみれ公園に設置されました。今後は自治会で管理していきます。うれしいことに、この事業を通じて、「中学生地域ボート隊」が結成されたことです。今後はこのサポート隊をどう生かすかが課題です。

3 アイデンティティなくして地域づくりなし

地域づくり用語が流行語のように生まれては消える昨今です。ときどきこうした言葉に翻弄されて目の前の現実を見失っているのではないかと思うときがあります。地域には人間と同じように人格があり、個性があるといいました。人を生かそうとするとき、その人のよさを理解しない限り、その人の力になることはできません。これと同じようなことが地域づくりにもいえるのではないのでしょうか。たゆまぬ会話と長い時間が必要です。そして、アイデンティティなくして経済も文化も進展しないと実感しています。

特集

まちづくり

豊栄市中央公民館

館長

佐藤 晴夫



1 「地域づくり講座」が各地区でスタート

まちづくり最前線として、当中央公民館の地域づくり活動についてご紹介します。

当館の「地域づくり講座」は、平成14年度にスタートしました。それは職員数が減り、貸し館的要素が強まる中で、公民館の意地とプライドにかけた挑戦でした。その意地とプライドは公民館の原点から出発しています。今日、いたるところで叫ばれている住民自治の確立は、実は公民館創設以来の公民館の地域づくり理念と考えることもできます。この理念を再び明確に掲げた当館の新たな挑戦でした。

豊栄市には五つの地区があります。そこで公民館職員が地域としっかりと向き合い、地域ニーズを引き出しながら、きめの細かい対応を図るために、地区担当者を決めました。職員の責任は重大です。木崎地区、早通地区、岡方地区、長浦地区、葛塚地区。それぞれの地区には地域性があります。それは人格のようなものだと考えています。その個性を大きく発展させ伸ばすために地域づくりがあるはずです。

2 各地区の地域づくり講座の現状

公民館の地域づくり事業に講座の名が付いていますが、実際はそれぞれ市民運動として展開しています。また、公民館も従前どおりの黒子としての事務局に止まるのではなく、互いの主体性を認め合う「協働」の姿勢で臨んでいます。そんな中

での各地区の現状は次のとおりです。

■木崎地区「若者発信の地域づくり」

人口9,308人 2,708世帯

(以下各地区とも8月1日現在)

農村地帯・新興住宅地・工業団地・新潟東港あり。結束力が強い。

青年グループ「木崎エリアネットワーク」組織
会員数12人

実施事業(目的:若者の発想を生かす)

・平成14年度:ソフトバレーボール大会

参加者100人

・平成15年度:大同窓会(参加者30人)

数多くの会議を開き、地域へのかかわり方を検討、今後、「木崎地域学校」の設立を考慮中。

■早通「クリスマスツリーで地域づくり」

人口10,251人 3,361世帯

新興住宅地と県営住宅とで発展した地域。新潟市に隣接し、ふるさと意識が希薄。

「早通地域結び実行委員会」組織

会員数14人(高校生3人)定例会あり

実施事業(目的:ふるさと意識の醸成)

・「ビッグクリスマス」開催(800人参加)

・早通まつりなど地域活動に参加

今後は地域を象徴するシンボルツリーと、各町内会にクリスマスツリーを設置して、早通地域全体のイベントとして開催したいと自治会等と検討中。

■岡方地区「ビデオ映画で地域づくり」

人口4,487人 1,056世帯 純農村地帯

「岡方探し隊」結成(20歳代~60歳代の15人)

実施事業(目的:ふるさと再発見)

・地域発見「岡方いろいろ」ビデオ映画製作

・人物発見「あの人この人」ビデオ映画製作

・阿賀野川堤防「花文字づくり」100人参加

実践記録 シリーズ 79

第55回新潟県公民館大会 実践事例発表2から

遊びにおいでよ、キッズクラブみつけへ

～広げよう安心の輪、地域ぐるみの子育て～

美生の会家庭班（ジュニア）
平原 富江



1. ～講座を創る、まちを創る～「美生の会」設立の経緯

見附市では「生涯学習ボランティア養成講座」（生ボラ）が、平成6年9月より生涯学習課の主管で始まりました。

見附市生涯学習推進基本構想により

- ①市民の多様化、高度化する学習需要に応じていくため。
- ②公民館が提供する学習機会のみならず、市民自らが学習活動の理念を理解する。
- ③各種プログラムを企画、立案、運営する能力を身につけ、学習活動を展開することが望ましい。つまり、市民が市民の視点で作る講座をめざして、それを担う人材を育成しようとの構想により養成講座が始まりました。

平成8年度より主管が中央公民館に移っております。修了生には生涯学習プランナーとしての「プランナー証」が授与されます。

修了生の中から「もう少し続けて活動の場がほしい」との自発的意欲により、平成9年度「美生の会」が結成されました。生ボラ養成講座修了生の中から、希望する者が毎年会員となり、現在10名となり、現在美生の会が参加する講座は、中央公民館講座の約40%を占めています。会の名称「美生」は、草木の種子が芽生えて苗となり、苗から木や草となり、やがて大きな森に成長することにあやかり、会の継続と発展を願ってつけられた名称です。

☆ 現在の活動の実態

○活動内容

- 1 自主講座の企画、運営（各班ごと）
- 2 生涯学習プランナーとしての研修、勉強会
- 3 公民館事業への参加、協力
- 4 学習を通してのまちづくり
- 5 他市町村との交流

2. 「キッズクラブみつけ」子育て支援への取り組みの動機

私が生涯学習養成講座の受講生になったのは、平成11年でした。

当時NHK特集で学級崩壊が放映されているのを見て、大変ショックを受けたことを覚えております。その後わずか5年の間に犯罪は低年齢化、凶悪化し、児童虐待も年々増加しております。

IT革命の進行に象徴される情報化の影響、携帯電話の普及など、子どもの行動が見えにくくなった現代は、親の不安が増大するばかりです。

平成14年度より、ゆとりある教育という政府の方針のもとに、学校、家庭、地域社会全体の中で子どもたちに「生きる力」をはぐくみ、健やかな成長を促すためとして、学校完全5日制が導入されました。

今、大人が作ってきた社会の環境を見回してみた時、子どもたちにとって安心して過ごせる環境とはとても思われません。子どもの教育は家庭が基本だと思いますが、核家族の増大、三次産業で働く人達の増加を考えたとき、地域の子どもは地域の方で、連携、協力することが必要と考えております。

事業名	対象・人数	実施場所	期間・期日	回数	参加者
美生の会「キッズクラブみつけ」	小学1～6年生30名	見附市中央公民館	毎月第1・3・5土曜日	25回	25～30名
【活動の狙い】					
・共働き家庭や自営業等で、休日子どもと一緒に休むことができない家庭への子育て支援					
・遊びや体験の中から「生きる力」を学習し、ふるさとの大切さを知る。					
【活動内容と方法】					
・地域の中に「居場所」を作り、地域の中の様々な人的人材とボランティアがリンクして、親たちが安心して働くことができるようサポートする。					

☆子どもたちの現状

毎月第1・3・5土曜日にAM9:00～PM5:00まで、実施計画に基づいて、料理をしたり、工作をしたり、虫を捕りにいったり、16ミリ映画を観たり、当合戦をしたり、心と体の成長に役立つ体験をたくさんしました。

キッズクラブが大好きで、1回も休まなかった子がいます。

☆事業の募集・啓発の方法

【サポーターの募集】

市の広報・民間新聞にて公募した結果10人の応募者がありました。

☆【遊び道具の募集】

市の広報・民間新聞にて呼びかけた結果、パドミントン、積み木、マンガ本などの寄付がありました。

☆【利用者の募集】

1年目 新規事業のため、PRをすべく見附市内小学校9校にチラシを配布、翌日定員を超える申込み。

2年目、3年目 広報、民間新聞のみに掲載、定員の申込み。

☆事業にあたり工夫、配慮した内容等

先進的に取り組んでいる長岡市の児童クラブを見学した後、必要な書類や備品の準備、サポーターとのコミュニケーション、健康上気配りのいる子どもたちの学級、事故対策、ローテーション、保険への加入等々、初めての試みであり、何回も何回も打合せを行い、かなりの時間と労力を費やし、万全の準備をしました。

☆実施事業の内容

別紙参照（省略）

☆参加者の感想

- ①友達がいっぱいでできて、楽しいことがいっぱいあって、メチャクチャうれしい。
- ②映画を観たり、料理を作ったり、工作をしたり、いろいろな友だちと遊べてうれしい。
- ③毎回楽しみにしている。特に出かけるときや、特別な計画がある時はうれしい。
- ④違う学校の友達ができうれしい。
- ⑤楽しいけれど、中にはちょっと意地悪をしたり、乱暴な子がいて少し困った。

☆保護者の感想

- ①親の仕事上、休んでないため遅んでやれないので、「キッズクラブみつけ」は親たちにとってはとても有難い。
- ②違う学校、違う学年の子と友達になり、帰ってきた時の表情がハッピーとしている。
- ③家庭や学校で体験できないことや、教えてあげられないことが多々あり、「キッズクラブ」でいろいろなことを学んでくるので有難い。料理等習ったことを家で作るようになった。

☆事業の成果

①市内各学校から集まった子どもたちが、違和感無く溶け込み友達作りをしています。

高学年の子どもは、サポーターの手伝いとして成長してきています。毎年30人ずつの受け入れとしても、年々キッズクラブを巣立った子どもたちが増えていき、やがて大きくなった時に、社会教育に関心を持つ子どもたちが出てくるのではないかと期待しています。

②公民館はカルチャーセンターの域を出ない、中高年の利用する所というイメージが強かったと思いますが、キッズクラブの子どもたちが利用することにより、他の団体と交流、人材バンクとの交流、地域社会の人達との交流が発生してきています。

③子どもたちの作品や装飾により公民館が明るくなりました。

3. 子どもたちの遊びの祭典「キッズフェスティバル」

中央公民館会場で、毎年9月に子どもたちの遊びの祭典「キッズフェスティバル」を開催し、約800人の子供たちがやってきました。一日中、見る、聞く、作る、食べる、触る体験を通して、いろいろな人達とかかわり、豊かな人間関係を育んでほしいと願っています。

また、大人になった時、「あの頃は楽しかった」という良い思い出を多く残してやりたいものです。

当日は、スライム、アートバルーン、ビニール傘、折り紙、昔の遊び、お抹茶体験など26コーナー協力団体が集まる予定になっています。

4. 終わりに

今の社会を生きる子どもたちは、学習は他人と競い、勝つための手段としてしか捉えない傾向の中におかれています。大人社会も極めて競争社会へと変容しつつあります。

男と女、障害者、高齢者など、地域に生活する様々な人々が、互いに助け合い、尊重し、協力することで、課題を解決していく共生型社会の実現は、一人一人が自分のできる力を出し合うことから始まると考えます。

「キッズクラブ」というボランティア活動を通して、子どもたち、ボランティアをして下さるサポーターの中・高生のみならず、一般市民の方、美生の会の人達、多くのすばらしい人達との出会いがありました。私一人だった家庭班もこんなに仲間が増えたことをとてもうれしく思います。人生は人と人の出会いの積み重ねで輪が広がっていきます。そして多くの人達とのネットワークにより、みんなすごい能力を持っていることを知りました。

最後に、これまで活動を支えて下さった公民館職員の皆様にも御礼を申し上げます。

聞き手と共に

新潟かみしばいクラブ

公民館講座をきっかけに創立した紙芝居の会で、会員数は男女合わせ20名です。

「昔、路地裏へ拍子木と共にやってきた紙芝居を現代に」
「絵を見せてお話を語る一つの方法として紙芝居はおもしろい」と、会員はいろいろな考えで中央公民館の月一回の定例会にやってきました。作品を吟味し、紙芝居理論を知り、実演練習をして成長し、聞き手と共に楽しい時間を持つことを目標にしています。



活動を始めて半年、子育て支援や高齢者施設に実演の場が増えてきました。紙芝居はプロのようにやろうと素人が

リキんでしまうと、自己満足のパフォーマンスに陥りがちです。誠実に演じることが第一と考えています。

新潟かみしばいクラブ

代表 石倉恵子 記



楽しく描こう

水彩画サークル

私達は、平成九年公民館主催の水彩画教室修了を機に発足したサークルです。当初継続できるかどうか、危惧もありましたが、良い講師と会員の熱意に支えられ、今年満七

年を迎えました。現在、十三名の会員ですが、毎月第二、第四土曜日に希望館の一室に集い、なごやかに、楽しく絵筆を走らせております。

作品を毎年村民展等に出品し、皆さんに鑑賞して戴くのを楽しみの一つにしており、作品づくりにも力が入ります。

会員の中には上級展を目指して、大作に取り組んでいる人もおられ、サークルの指標として、頼もしい限りです。

白いキャンパスに絵筆を走らせてみたい、と思う意欲のある方のご参加をお待ちします。

頸城村水彩画サークル

代表 横山初二 記

活動を始めて半年、子育て支援や高齢者施設に実演の場が増えてきました。紙芝居はプロのようにやろうと素人がリキんでしまうと、自己満足のパフォーマンスに陥りがちです。誠実に演じることが第一と考えています。

活動を始めて半年、子育て支援や高齢者施設に実演の場が増えてきました。紙芝居はプロのようにやろうと素人がリキんでしまうと、自己満足のパフォーマンスに陥りがちです。誠実に演じることが第一と考えています。



岩船地区公民館に配属され2年目の前川さん。市内に4つある地区公民館の中でも地域の社会教育関係団体との共催事業が多く、多忙な毎日を送っています。一人職場であり、すべての地区館事業をこなしています。

夏季は特に行事が目白押しで、健民少年団の活動や岩船甚句大会、野球大会、運動会など土日集中しました。



村上市岩船地区公民館

主査 前川龍也さん

これからは秋の行事が始まります。

1年目よりは2年目とパワーアップし、確実に業務を消化。日焼けの残る顔は、まだまだエネルギーに満ち溢れています。活動終了後の飲みニケーションも抜群で地域に溶け込んでいます。

煩雑な公民館業務ではありますが、妥協せずにこれからも共に頑張って行きましょう。

(村上市中央公民館 倉松 淳志 記)

瀧澤君は、社会体育係2年目の我が教育委員会の若手期待の星です。広神村を代表するナイトワークをはじめ、各種スポーツ大会、教室、学校体育指導等多岐にわたる事業をテキパキこなしています。また今年は、パソコン教室の講師としても大活躍で、写真からお分かりのように、爽やかな笑顔で、生徒さんの視線を釘づけにしています。



広神村教育委員会社会体育係

主事 瀧澤哲也さん

そんな彼の趣味は溪流釣りです。大自然の中でヤマやイワナとの勝負は、普段の仕事を忘れさせてくれるそうです。もちろん、キャッチandリリースで、自然を愛することは人一倍です。ちなみに女性の方もキャッチしたのかな……？

11月には魚沼市になりますが、仕事に恋に大いに頑張ってください。

(広神村教育委員会社会教育係 高木 公輔 記)



紙上紹介が大変遅れてしまいましたが、この冊子は十日町市立中条小学校創立百三十周年記念事業の一環として、同中条地区公民館支援の下刊行されたものです。サブタイトルに「やまて、中条交流のかけはし」とあり、中条、大井田氏という共通項の下、岡山県山手村との交流学習の成果を中心に編さんされており、



- 章毎のネーミングも、そのまま教材用として活用できるよう、Q&A、A4判スタイル、平仮名表記が主体です。第1章を例にとりますと、山手村の皆さんから中条(十日町)はどんなところですか、と聞かれたら、どのように答えたらよいでしょうか。
1. 私なら十日町には三つの日本一がある、と答えます。
 - (1)日本一長い信濃川が
 - (2)五万都市では、日本一の豪雪地
 - (3)日本一おいしい「魚沼産コシヒカリ」

このように章を追って行っても楽しく読め、かつ自然に学習できるよう、工夫し編集しております。内容面でも、歴史的な地名、人名、用語等にはルビを付し、だれでもが読めるようにしてあります。その他、系譜、写真、資料等、ふんだんに、見易く掲載してあります。

最後に、第6章に、交流の輪を広め、交流の絆を深める手だてについて、「虹の会」を中心とした趣意書を掲載してあります。学校と地域と公民館が一体感となつていく姿が、この冊子から浮かんで参ります。

恵贈資料紹介

中条再発見

十日町市中条地区公民館

Net work ネットワーク

全国公民館連合会 編集発行!

公民館の新しいビジョンを開く



- 必読!**
- 全国の公民館職員
 - 生涯学習推進関係者
 - 社会教育行政職員
 - 全国の公民館利用者
 - 公民館運営審議会委員
 - 学校関係者

タイムリーな特集テーマ

実践事例から専門家の論考・考察・データまで、多面的な誌面構成で、幅広いテーマに切り込みます。

具体的事例のレポートも豊富

地域に密着し、学校と連携した積極的かつユニークな公民館事業を、多数紹介しています。

実践に役立つ情報満載

めまぐるしく変化するニーズを的確にとらえ、企画・開発・実践の場で役立つ情報を提供します。

生涯学習時代に即応

生涯学習時代をむかえ、公民館が直面する諸課題に多角的にアプローチして問題解決を探ります。

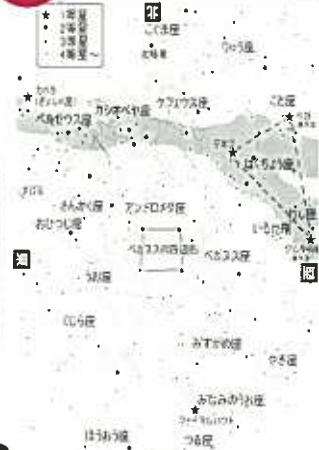
編集・発行 社団法人 全国公民館連合会
〒101-0001 東京都千代田区千代田1-18-2
TEL 03-2521-9844/FAX 03-2561-1481
http://www.kokuminren.or.jp

編集 第一法規株式会社
〒107-8560 東京都港区南青山7-11-17
TEL 03-202-203 696/FAX 03-202-202-974
http://www.daiichiho.co.jp

event information

秋の星空

- ★石の洞窟
9月20日 午後 0時～3時
10月20日 午後 1時～4時
11月20日 午後 5時～8時
- ★南を向いて見上げた空の星座の図です。
- ★南の空を見るときは、目を逆さまにしてください。



★秋の星座を見つけよう★
秋の星座は、9月～11月の間に最もよく見えます。この時期は、南の空には、大抵の星座が見えます。星座の位置は、星座の図を参考にしてください。星座の位置は、星座の図を参考にしてください。星座の位置は、星座の図を参考にしてください。

平成16年11月の催物ご案内

アメリカ伊能大園星めぐりつろア展

11月19日(金)～11月23日(火) 10:00～18:00(月日は休館)

【展示内容】
江戸時代の航海家 伊能忠敬が蒐集、制作した歴史的な日本の実測図 伊能大園(伊能忠敬)の「伊能大園」や各所の測量図(複製)。現在の実測図などを展示、紹介します。
伊能大園の巻本は火災や震災ですべてが消失しましたが、2001年、才助館蔵の複製図207枚が見つかり、多量、国土院蔵が中心になり、デジタルデータをもとに複製された「伊能大園」をアフロアに展示します。

ぶらネット秋番組★ 9月11日(土)～11月28日(日) 「ぶらネット・ハンター～第二の地球を探せ!～」

★番組のご案内★
大園の外に想像のような風景は存在するのでしょうか?宇宙から、地球に似た惑星なんていうところもあるんじゃないかと、多くの人々が思っています。しかし、実際に大園以外で想像(異世界)が見られたのは、1995年、ごく最近のことです。そして、これまでに100以上の異世界が発表されています。今回の番組では、これまでに発表された異世界を紹介し、最新発見の地球外生命探査をアフロア「ぶらネット」では、地球外生命探査方法を紹介します。もし、アフロア「ぶらネット」で、宇宙船、宇宙飛行士などの体験も紹介いたします。

11月の休館日は、1日(月)、8日(月)、15日(月)、16日(火)、22日(月)、29日(月)です。開館日(11月)は、11月1日(日)を除き、11月2日(月)の定休日(11月)の、11月3日(火)を除き、11月4日(水)～11月11日(火)です。

〒950-8518 新潟市中央区南3丁目1番1号
新潟県立自然科学館

あ と が き

◆県公連にも、財源確保の緊急課題が重く押し掛かって参りました。自主財源確立のための調査検討委員候補のリストアップも行い、近々中に発足を予定しております。

◆10・11月は、正に研修シーズン、下公連を手始めに中公連の研修も予定されておるようです。(鈴木記)

表紙解説 もみじの園の紅葉(越路町) もみじ園の紅葉は11月上旬からが見頃。日没後はライトアップされた紅葉が幻想的な世界に!